

産婦人科

(1) 到達目標

将来の専攻にかかわらず医師として必要な正常妊娠の管理、妊娠中の合併症について基本的知識を習得する。また、女性特有の疾患に対する救急医療の知識を習得する。

(2) 行動目標（代表的行動）

- 1) 基礎知識を確認する。
- 2) 妊娠の診断と妊娠初期、周産期、産褥期における管理法を学ぶ。
- 3) 婦人科疾患の診断とその管理法を学ぶ。

1) 基礎知識の確認

- ① 女性生殖器の解剖を理解し、経腔超音波断層法により骨盤内臓器の情報を得る方法を学ぶ。
- ② 視床下部、下垂体、卵巢の内分泌調節系より、女性性周期を理解する。

2) 妊娠の診断と妊娠初期、周産期、産褥期における管理

・妊娠の診断

- ① 免疫学的妊娠診断法と超音波検査による妊娠診断法を学ぶ。
正常妊娠と異常妊娠の判別、妊娠週数と分娩予定日の算出方法を学ぶ。

・妊娠初期、周産期、産褥期における管理

- ① 正常妊娠経過、正常分娩・産褥経過、新生児の評価法(Apgar score)を習得する。
- ② 妊婦健診時の超音波検査の意義を理解し、その手技を見学する。
グッドマンXPの適応と評価、NST等による胎児well beingの評価について学ぶ。
- ③ 内科的慢性疾患を合併する妊婦の周産期管理について学ぶ。
- ④ 妊娠中及び妊娠における急性腹症について習得する。
卵巢囊腫茎捻転、卵巢出血、尿路結石、常位胎盤早期剥離、切迫流産など
- ⑤ 分娩室での研修
分娩担当医とともに分娩に立会い、分娩介助、産科処置、産科出血に対する処置について学ぶ。
- ⑥ 帝王切開術の助手をつとめる。

3) 婦人科疾患

・悪性腫瘍

- ① 子宮腔部細胞診及び体部細胞診の手技と評価を学ぶ。
- ② 悪性腫瘍の診断と集学的治療について学ぶ。
- ③ 悪性腫瘍の手術、術後管理の要点を学ぶ。

・良性腫瘍

子宮筋腫、子宮内膜症、子宮腺筋症、良性卵巢腫瘍の症状、診断、治療について学ぶ。

・急性腹症

産婦人科急性腹症の鑑別診断を行い、救急外来から専門医に紹介するまでの初期対応を学ぶ。子宮外妊娠、卵巢囊腫茎捻転、卵巢出血、子宮付属器膿瘍、骨盤腹膜炎など

・感染症

性感染症を含む婦人科性器感染症の診断、治療を学ぶ。

4) その他の研修事項

- ・外来にて内視鏡検査（コルポスコピー、子宮鏡検査）を見学する。
- ・第1、第3火曜日16時半から 抄読会で英文論文のプレゼンテーションを行う。

(3) 研修方法

1) 一般的事項

- ① ロータート開始時に、主任指導医・上級医と面談し、自己紹介、研修目標の設定を行う。
ロータート終了時には主任指導医のfeed back を受ける。
- ② 抄読会（第1・3火曜日）では産科または婦人科に関する英文を検索し、発表内容を指導医・上級医と相談の上、発表する。
- ③ できるだけ多く手術見学を行い、症例によっては第2助手として手術に立ち会う。

2) 外来

- ① 初診患者の問診、身体診察を見学し、検査結果の評価と治療を学ぶ。
- ② 妊婦健診において、妊娠経過の評価、必要な検査、投薬などの治療を学ぶ。

3) 病棟

- ① 指導医・上級医とともに受け持ち患者をもち、自ら回診し自覚所見、他覚所見の変化より経過を把握し、カルテ記載する。
- ③ 分娩担当医とともに分娩に立ち会う。

4) カンファレンス

- ① 婦人科カンファレンス 毎週月曜日17時から
手術予定患者の術前評価と術式の検討、相談症例の検討会に参加する。
- ② 病理カンファレンス 第1・3月曜日16時半から
- ③ NICUカンファレンス 第2・4月曜日16時半から

(4) 評価

- 1) 研修医は、ロータート終了時に自身の研修達成度を確認しながら、自己評価を行う。
- 2) 指導医あるいは上級医は、全ての行動目標に対して、研修医のレポートと面談をもとに評価を行う。必要に応じて医師以外の評価者も観察記録による形成的評価を行う。総合的な評価結果はロータート終了時にfeed backされるとともに、オンライン臨床研修評価システムにて記載される。
- 3) 指導医は提出された病歴要約により、経験すべき症候・疾病・病態に関する理解度について評価を行う。

(5) 週間スケジュール例

	月	火	水	木	金
午前	妊婦健診	外来	病棟回診	手術	外来
午後	外来	手術	手術	手術	産褥健診
カンファレンス	NICU/病理	抄読会			